

レジメンcode:	C54-11
適応がん種:	子宮体癌
レジメン名:	Pembrolizumab+TC
間隔:	3週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	キイトルーダ	200	mg/body	点滴(30分)	d1
PTX	パクリタキセル(タキソール)	175	mg/m ²	点滴(3時間)	d1
CBDCA	カルボプラチニ(パラプラチニ)	5	AUC	点滴(1時間)	d1

- Pembrolizumab+TC療法実施後、疾患進行が認められない場合、C54-12Pembrolizumab(6週間)維持療法へ移行する。
- SD又はPRが認められ、サイクル6終了時点で測定可能病変が残存していた患者は併用療法期の投与を最大サイクル10まで継続できる。

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	50ml	1 本	ルート確保
2) キイトルーダ	200 mg/body		
生食	50ml	1	
	主管①	点滴 30分	インラインフィルター必須
3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴 15分	
4) ファモチジン	20mg	1 A	
デキサート	6.6mg	3 V	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管③	点滴 15 分	
5) アロカリス	235mg	1 V	
パロノセトロン	0.75mg	1 V	
生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴 30 分	
6) パクリタキセル(タキソール)	175 mg/m ²	【ケモセーフ使用】	
ブドウ糖液5%	500ml	1 袋	
	主管⑤	点滴 3時間	インラインフィルター必須
7) カルボプラチニ(パラプラチニ)	5 AUC	【ケモセーフ使用】	
生食	250ml	1 袋	
	主管⑥	点滴 1時間	
8) 生食	50ml	1 本	

フラッシュ

〈所要時間 約6時間〉

次ページあり

*適応:進行・再発の子宮体癌

(臨床試験)

*対象:

- ・化学療法歴のない進行・再発の患者(測定病変を有するⅢ/ⅣA期、又は測定可能病変を問わないⅣB期)
- ・術後化学療法による治療歴は、最終投与から再発まで12ヶ月以上経過している場合は可

*投与回数:

- ・TCは最大6サイクル(しかし、臨床的ペネフィットが継続し、投与が許容可能な患者は6サイクルを超える投与が許容された)
- ・キイトルーダは最大35サイクルまで投与された。
- ・TC療法終了後はC53-15:Pembrolizumabへ移行する。

*PD-L1発現の有無は問わない。

【キイトルーダ】

*甲状腺機能障害、下垂体機能障害及び副腎障害があらわれる事があるため、投与開始前及び投与期間中は定期的に内分泌機能検査を実施すること。

◎検査セット登録あり:場所 カルテ→(検体)→(特殊セット)→(免疫チェックポイント初回)(免疫チェックポイント2回目~)

*インラインフィルター(0.2~5 μm)を使用する。

*調製時、又は希釀後に振盪により微粒子が生成される可能性があるため、バイアルは振盪せず、激しく攪拌しない。

*生食又は5%ブドウ糖に溶解する。同一点滴ラインを使用して他の薬剤を併用同時投与しない。

*希釀後、25°C以下で6時間以内または2~8°Cで合計96時間以内に使用する。

*有害事象(肺、肝、内分泌障害、皮膚、胃腸、腎、神経関連など)対処アルゴリズムを参照する。

*臨床試験での検査スケジュール、投与延期または休薬基準を参照する。